

# 会報

## 無肥研だより

### 第2号

2017年10月1日 発行



「無肥研だより」第2号をお届けいたします。今回は、7月末に開催いたしました北海道会員圃場見学会と8月にJAたじまコウノトリ育むお米生産部会豊岡支部会員等の皆様による無肥研圃場視察・研修についてご報告をさせていただきます。なお、今回から新たに生産者の紹介の欄を設けました。

### ★ 活動報告

#### 北海道会員圃場見学会 (2017年7月29日～31日)

今回は、18名の参加者に白岩理事長も現地で合流して、北海道の会員圃場見学会を下記のとおり実施いたしました。

##### 1. 永野 様 農園 (夕張郡長沼町)

永野様は、1962年より無肥料栽培をされていた方から農地を借り受けられて、現在は水稲4ha、ダイズ4.9ha、トマト、ナス等の野菜類50aを無施肥無農薬栽培(以下、「無施肥栽培」という)され、8年目になります。そのうち、無肥研には水稲40a、畑7.5aを登録されています。今回は水田(モチ米、黒米)、ダイズ、ハウス栽培のトマトを見せていただきました。



水田は泥炭層の上に千歳川の沖積土が積もった場所で、耕土の上層部は粒子が細かくトロトロのために、乗用型の除草機は一度しか入ることが出来なかったとのことで雑草が多く残っていました。また、畦から漏水して水持ちが悪く、常時水を入れなければならないのですが、水温が低いためにプールに水を溜めて水温を上げてから田に入れておられます。ダイズは7月2日に播種されたところで、これから生育していくところでした。連作3年目のトマトは、一週間に一回程度の灌水で、ワキ芽も木がある程度大きくなるまで取らないとのこと。心配された連作障害もなく、収穫間近の大きくてきれいな実が付いていました。

##### 2. 玉田 様 農園 (士別市上士別町)

玉田様は、2001年から、12aの畑でカボチャの無施肥栽培を始められ、今年で連作17年目を迎えられました。購入種子を5月4日に播種、自家育苗の後、5月24日に定植されています。今年の士別地方は6月に雨が多く、気温も低い日が続いたために例年に比べて生育は遅れているとのことでした。毎年、玉田様からは、「甘くて、美味しい」と、消費者の評判がいいカボチャを届けてもらっています。



### 3. 秋場 様 農園（北見市東相内町）

秋場様の農園は、1951年に御祖父様が60a圃場で無施肥栽培を始められてから、順次栽培面積を広げられて、現在では約40ha(東京ドーム8.5個分)を無施肥で栽培されています。奥様をはじめ、ご家族の方と力を合わせて、「適地適作」「適期管理」「適土作り」の3つを信条に100年経っても生産できる農業を目標に無施肥栽培に取り組んでおられます。



1951年より無施肥栽培を始められた圃場では、現在はダイズを5年間連作しておられ、白岩理事長も自ら畑に入り、その素晴らしい出来栄を確かめていました。ダイズ、黒ダイズの畑は4か所に点在して全部で10haあるそうですが、今年は気候の関係から5月15日から10日間で一気に播種されたとのことでした。秋場様はその他にアズキ、バレイショ、トウモロコシ、コムギ、ダイコン、ニンジン等も栽培されています。見学にうかがった時には、高台にある広いアズキ畑で平均年齢70才を超える4～5人の女性たちが、機械では取れない株間の草を手で黙々と引いておられました。

### J Aたじま コウノトリ育むお米生産部会 豊岡支部 視察・研修（2017年8月21日）



7月9日の圃場見学会に参加された成田市雄様（兵庫県豊岡市のコウノトリ育むお米生産部会・豊岡北部支部長）から、同僚の生産者らと共に無施肥無農薬栽培（以下「無施肥栽培」という）水田を見たいとの依頼があり、8月21日に生産者とJAたじま、豊岡市、兵庫県の職員の皆様など、総勢57名の方が滋賀県にある無肥研管理圃場と無肥研会員の水田を視察・研修されました。

### 1. 中道 様 水田（滋賀県野洲市）

中道様は、有機栽培を主に約30haの水田を耕作される滋賀県でも有数の農家で、その一部（2007年から32a、2010年から57a）で無施肥栽培を実施されています。当日は、無施肥栽培と有機栽培との違いや無施肥栽培の特徴（①病気に対する抵抗性が高い事、②稲が虫害にも強い事、③米の品質が良く栄養価も高い事）について、中道様から体験を通じた説明がありました。



参加者から「肥料も何もやらないのは信じられない。栄養の供給源はどうなっているのか」との質問に対し、これまでの無施肥栽培水田での土壌分析の結果をふまえて中道様と小林理事長から「無施肥栽培を長期継続しても土壌の全窒素量は減少せず、イネが必要な時に土壌の窒素量が上がってくるのは、かんがい水が供給源の一つだが、それだけでは説明つかないので、継続することで土壌に何らかの変化がでるようだ」と説明がありました。「草が少ないようだが、何年経ったら減ってくるのか」との質問には、中道様から「除草のタイミングと初期の水管理が重要だと思うが、年々草が生えにくい環境になってきていると思う」と説明がありました。他にも多くの質問があり、予定の時間を過ぎても質疑応答が続きました。



## 2. 沢 様 水田(滋賀県東近江市)

沢様は、大中干拓地で機械力を使った大規模な稲作と酪農をされています。1998年から無施肥栽培を実施されており、今回は2010年から実施されている圃場(80a)を視察されました。当日は、沢様不在のため、JA グリーン近江やシガ産業の熊木様が、大中での農業形態について、入植当初から現

在に至るまでの経緯を話され、沢様が無施肥栽培に取り組んでおられる様子をお話いただきました。その後、参加者は稲の穂を手にとって熱心に観察されていました。

## 3. 野洲無肥研管理圃場 (滋賀県野洲市)

野洲では、4筆の水田[モチ米(9a)は28年目、秋の詩(2筆・13.5a)は23年目、コシヒカリ(11a)は15年目]をご覧になりました。小林理事から、それぞれの水田の状況や、深水栽培や品種の違いを比較する試験を行っていることの説明がありました。



参加者から「なぜ肥料を入れてはいけないのか」との質問があり、小林理事から「肥料を入れるとイネが軟弱になるなど病虫害の発生する確率が高くなるので、農薬を使わなければならなくなる。無農薬栽培を効率的に大規模で行うのは無施肥でないと難しいかもしれない。以前ウンカが発生した時、肥料を入れた田圃は被害が多かったが、隣接する無施肥栽培の水田では被害がなかった。無施肥栽培のイネはケイ酸濃度が高くなり強靱な稈になるなど健康に生育し、病虫害や風水害にも強くなる。さらに無施肥栽培を継続することで土壌微生物の働きなどに変化があらわれ、土の持つ作物を育てる力が活性化していくので、その環境でイネを育てる方がイネは健康に生育する」との説明がありました。盆を過ぎたとは言え、強い日差しもあり残暑厳しい中、皆様が熱心に説明を聞いておられました。

## ★ 生産者の紹介

### 玉城 様 農園 (沖縄県北中城村) (2017年4月5日)



本年1月に東京で開催された無肥料自然栽培懇親会・勉強会に小林理事が参加させて頂いたことがきっかけとなり、沖縄県北中城村で農業を営まれている玉城卓様の圃場を訪問させて頂きました。玉城様は3年前より無施肥無農薬栽培を始められています。合計2ha余りの圃場は4個所に分かれており、バナナ・パッションフルーツ・ドラゴンフルー

ツ・マンゴー・ナツメ・セロリ・タマネギ等を栽培されています。今後も増やして行く予定でおられます。現在は合同会社ソルファコミュニティとして農福連繋活動をされています。

(5月に無肥研の正会員になられ、圃場登録をされました)



## ★ 今後の行事予定

### 農産展・試食懇親会 (2017年11月19日(日))

恒例の無施肥無農薬栽培農産物の展示会を11月19日に開催します。北海道から沖縄まで、全国で活動されている無肥研会員の皆様が丹精込めて生産された農産物を一堂に集めて、会員や一般の皆様が無施肥無農薬栽培の生産物を知ってもらおう催しです。講演会や試食懇親会も計画しております。



農産展には北海道から九州までの、大規模専業農家から家庭菜園にわたる幅広い生産者の皆様から、米や大豆などの穀類、馬鈴薯・甘藷などのイモ類、大根・カブ・人参などの根菜類、小松菜・ホウレンソウなどの葉菜類、さらにネギ・カボチャ・



キウイフルーツなどから、加工品として緑茶や日本酒、味噌、醤油など、毎年250点ほどの出品があります。さらに農産物の即売や、無肥研事業の調査研究報告や催事のパネル展示もさせていただきます。

農産物展示会と併せて、研究者・流通事業者の視点から見た無施肥栽培に関する講演や、水稲・野菜・お茶を生産する方たちの講演、さらに料理人の方から無施肥栽培農産物の調理方法紹介などをさせていただきます。今年は農研機構の上西良廣様から「無施肥無農薬栽培の生産実態と今後の普及の可能性」についてお話をいただく予定です。



試食懇親会では20年以上無施肥栽培を続けてきた米の炊き立てご飯や、大根おろしに無施肥の醤油を少し垂らしたり、



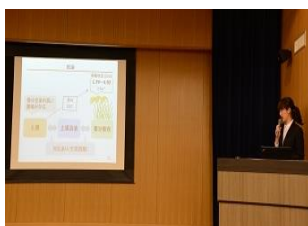
無施肥の大豆で作った豆腐の冷やっこなどが人気で、それらに加えて北海道から九州まで全国の生産者から届けられた無施肥栽培作物を活かした煮物、和え物などの料理を味わいながら、研究者・生産者・流通事業者・消費者の方々が集い、和やかな雰囲気の中で活発な意見交換をされるひとときを持たせていただいております。

毎年、全国各地から多くの方がご来場になり、無施肥栽培農産物の姿に触れて、無施肥栽培への関心を高めておられます。今年も皆様方のご出品、ご来場をお待ちしております。

### 総会・研究報告会・懇親会 (2018年3月18日(日))



2016年度研究報告会



無肥研会員の皆様にお集まりいただき、当会の活動の結果と計画を話し合わせていただく総会と、事業の柱であります無施肥栽培の調査研究の成果をご報告させていただく研究報告会、そして会員の皆様の意見交換の場としての懇親会を、来年3月18日に開催いたします。皆様のご参加を心からお待ちしております。

会報についてのご意見を、郵便、FAX、e-mailでお寄せ下さい。皆様のお力で会報を充実させていきたいと存じますので、ご協力のほどお願い申し上げます。  
(編集担当)

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2

特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会

e-mail : [mail@muhiken.or.jp](mailto:mail@muhiken.or.jp) FAX : 075-751-0368

URL : <http://muhiken.or.jp/wp/> Facebook : <https://www.facebook.com/muhiken/>